



コンテンポラリーアニメーション入門

～現代短編アニメーションの見取り図～ 2013

ルース・リングフォード、ジョルジュ・シュヴィツゲベル来日!!

第13回講座 7月27日(土) 第14回講座 9月29日(日) 第15回講座 11月2日(土)



入場料無料／事前申込不要

会場：東京藝術大学 横浜校地 馬車道校舎
アクセス：みなとみらい線「馬車道駅」7番出口を出ですぐ
主催：東京藝術大学大学院映像研究科 共催：横浜市文化観光局



公開講座 馬車道エッジズ 「コンテンポラリー・アニメーション入門」～現代短編アニメーションの見取り図～

我々の同時代にどのようなアニメーション作家が、どのような意識で作品を制作しているのでしょうか。短編アニメーションは常にアニメーション映像の可能性の最先端を走っています。まずその基礎知識を共有して、コンテンポラリー・アニメーションの見取り図を描くことがこの公開講座の目標です。」東京藝術大学大学院映像研究科では、世界的に「いま」を象徴する作家の作品の鑑賞を中心に、講義を開催いたします。

2009年7月に始まった公開講座「コンテンポラリー・アニメーション入門」は、今年、東京藝術大学の招聘で、ルース・リングフォード監督とジョルジュ・シュヴィツゲベル監督をお招きし、特別講座を開催します。

企画／進行：山村浩二 *Koji Yamamura*

東京藝術大学大学院映像研究科 教授

1964年名古屋市生まれ。『頭山』がアヌシー、ザグレブ、広島をはじめ6つのグランプリを受賞、アカデミー賞にノミネートされる。また『カフカ 田舎医者』がオタワなど7つのグランプリを受賞。2011年には日本人初のNFBとのアニメーション共同制作『マイブリッジの糸』を完成。アニメーション作品の国際的な受賞は80を越える。国際アニメーションフィルム協会理事、日本アニメーション協会副会長。

馬車道エッジズ ANIMATION

主催: 東京藝術大学大学院映像研究科 共催: 横浜市文化観光局 協力: NFB(カナダ国立映画制作所)

会 場: 東京藝術大学 横浜校地 馬車道校舎
アクセス: みなとみらい線「馬車道駅」7番出口を出てすぐ
入場無料／事前申込不要(先着順90名)

※満席の場合には立ち見のスペースが無いため、会場の中に入れない場合がありますのでご留意下さい。なお、1階ロビーにて講座の映像中継を用意する予定です。

※インターネット上でストリーミング中継を予定しています。
詳しくは公式ウェブサイトにて案内いたします。

お問い合わせ: ca_info@animation.geidai.ac.jp



第13回
講座
7月27日(土)



ルース・リングフォード
Ruth Lingford

演題:『Feel-bad film making』

講師: ルース・リングフォード

開場: 午後3時30分～ 講演: 1部／午後4時～午後5時30分 2部／午後5時40分～午後7時
上映作品(予定): 『戦争と快楽』(1998)、『年老いた愚者』(2002)、『小さな死』(2010)

講師紹介

1953年イギリス ロンドン生まれ。長年、療法士として働いた後、'90年ミドルセックス工科大学で美術と美術史の学士号を取得し、「92年ロイヤルカレッジ・オブ・アートでアニメーションの修士号を取得する。'93年、イギリス、アーツ・カウンシルのアニメーション制作プロジェクトanimate!での受賞により、「彼女が欲するもの」('94)を当時のパーソナルコンピューターAMIGAを使って制作。その作品は、世界の多くの映画祭で上映され、一躍注目を浴びる。その後、「死と母親」('97)、「戦争の快楽」('98)、「年老いた愚者」('02)、「小さな死」('10)などを発表し、世界中の映画祭で数多くの受賞をする。彼女の作品は、コンピューターを用いた2Dによるドローイングと、時折織り交ぜられる実写映像との組み合わせを主な技法としている。'98年から'05年までロイヤルカレッジ・オブ・アートのアニメーション修士課程で教鞭を取り、現在はハーバード大学のビジュアル環境学研究学科でアニメーションを教えながら、新しいプロジェクトにも関わっている。

第14回
講座
9月29日(日)



ジョルジュ・シュヴィツゲベル
Georges Schwizgebel

演題:『How I make animated film』

講師: ジョルジュ・シュヴィツゲベル

開場: 午後3時30分～ 講演: 1部／午後4時～午後5時30分 2部／午後5時40分～午後7時
上映作品(予定): 『ロマンス』(2011)、『途中で』(2012)他

講師紹介

1944年スイス ベルン州ルコンヴィリエ生まれ。'65年ジェネーブ装飾美術大学を卒業。在学中にアヌー映画祭に参加した事をきっかけでアニメーション制作に興味を持ち始める。卒業後、グラフィックデザイナーとして広告代理店に勤務し、友人らと共に3人でアニメーションの制作を始める。1970年に退社し、彼らとGDSスタジオを設立。「イルカルスの飛翔」('74)が、世界中の映画祭で数多くの受賞し、脚光を浴びる。制作の傍らジュネーブ大学で中国語を学び、'83年から'84年の間、上海の大学に留学する。帰国後「78回転」('85)を完成させ、再びアニメーション制作に重点を置いて活動するようになる。ドローイングによるアニメーション得意とし、遊び心に満ちたアプローチや、徹底したスタイルの構築によって特徴づけられていると言われ、縦横無尽に動き回る圧巻な世界を生み出し続けている。「破滅への歩み」('92)はアニメーション史上最高の作品のひとつであるとする専門家も少なくない。

第15回
講座
11月2日(土)



演題:『現代日本のインディペンデント事情』

講師: 山村浩二 パネリスト: 和田淳、しりあがり寿、他

開場: 午後3時30分～ 講演: 午後4時～午後6時

上映作品(予定): 『春のしづみ』(2010)、『グレートラビット』(2012)、『ならべうた「徳川15代將軍」』(2008)他

インディペンデント・アニメーションの定義から、最近の日本での作品の傾向、助成金の話、発表の方法等、昨今のインディペンデント・アニメーション事情を山村浩二、しりあがり寿、和田淳ほかのゲストによる上映とトークディスカッション。

和田淳 *Atsushi Wada*

1980年兵庫県生。大阪教育大学、イメージフォーラム付属映像研究所、東京藝術大学大学院で映像を学ぶ。2002年頃から独学でアニメーションを制作はじめ、「間」と「気持ちいい動き」を大きなテーマに制作を続いている。「わかないバタ」('10)がファンシーショー国際アニメーション映画祭でBest film、文化庁メディア芸術祭で優秀賞等国内外の映画祭で受賞。『春のしづみ』('10)がベネチア映画祭オリジンティ部門で上映され、『グレートラビット』('12)がベルリン国際映画祭短編部門で銀熊賞を受賞する。テレビシリーズ『レイナライナ』('09)で共同監督として参加、映画『私は猫ストーカー』('09)、『ゲゲゲの女房』('10)でアニメーションパートを担当する。現在、大阪教育大学、大手前大学非常勤講師、日本アニメーション協会会員。

しりあがり寿 *Kotohiko Shiriagari*

1958年静岡市生まれ。1981年多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業後キリンビール株式会社に入社し、パッケージデザイン、広告宣伝等を担当。1985年単行本『エレキナ春』で漫画家としてデビュー。パロディを中心とした新しいタイプのギャグマンガ家として注目を浴びる。1994年独立後は、幻想的あるいは文学的な作品など次々に発表、マンガ家として独自な活動を続ける一方、近年ではエッセイ、映像、ゲーム、アートなど多方面に創作の幅を広げている。2001年『弥次喜多 in DEEP』(エンターブレイン)にて第5回手塚治虫文化賞「マンガ優秀賞」を受賞。2012年『あの日のマンガ』(エンターブレイン)にて第15回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞。

注)予告なく演題、上映作品、講師を変更する場合がございます。ご了承ください。

最新情報は公式ウェブサイトをご覧下さい。<http://animation.geidai.ac.jp/ca/>